
クリニックの外来診療

クリニックの実施成績

小野良樹

東京都予防医学協会保健会館クリニック所長

はじめに

東京都予防医学協会(以下「本会」)が運営する保健会館クリニックは、健康保険法による一般外来と専門外来、老人保健法(2008年度からは「高齢者医療確保法」)による地域住民の健康審査およびがん検診を実施している。

一般外来は、地域住民の診療と職域での定期健康診断後の有所見者に対する診療と事後指導を希望に応じて実施している。

専門外来は、消化器(肝臓病含む)、循環器、糖尿病、腎臓病、呼吸器、整形外科、乳腺、婦人科、甲状腺、更年期、代謝、禁煙、睡眠時無呼吸症の13科と小児相談室で構成される。

専門外来の受診者は、本会の1日人間ドック、労働安全衛生法による定期健康診断、学校保健法による健康診断、高齢者医療確保法による健康審査などで要精密検査・要受診と判定された人で、当クリニックの受診を希望された人、または一般外来受診者で専門外来の受診を必要とされた人である。

診療には、クリニック常勤医および外部(東京医科大学、慶應義塾大学医学部、東京慈恵会医科大学、順天堂大学医学部、日本大学医学部、日本医科大学、昭和大学医学部、癌研有明病院、東京警察病院、杏雲堂病院)の専門医らが当たっている。

有能な非常勤医の協力を得て、小世帯の割合には多くの診療業務を実施している。先進的医療が行われる一方、行間の診療が欠如しないよう細心の注意を払っている。近年、診療部門をさらに強化すべく

常勤医師の増員を図り、2008(平成20)年には乳腺外科専門医を1人増員した。

看護師は20人在籍している。一般外来、専門外来の看護業務をそれぞれ交代で担当している。本会の看護師は、がんに関する精検結果の追跡調査を分担して行っており、がん診断の精度管理にも精通している。追跡する項目は、子宮がん、乳がん、肺がん、胃がん、腹部がん、大腸がん、前立腺がんである。各担当の看護師の努力により追跡調査が行われ、がん発見における陽性反応適中度は向上している。

看護師はこの他、本会内危機管理委員会の下部組織であるリスクマネジメント部会を担当している。この活動により、業務マニュアルは日々更新され、インシデントは減少し、看護業務の健全化が図られている。また個人情報保護法に基づく教育も日常的に行われている。

診療報告

2008年度の年間総受診者は18,914人である。2007年に比較し、5.5%増加した。一般内科の年間受診者は4,129人(全受診者の21.8%)であり、専門外来の受診者は、乳腺外来1,618人(同8.6%)、婦人科外来2,313人(同12.2%)、甲状腺外来4,357人(同23.0%)、消化器外来2,379人(同12.6%)であった。その他の外来の実数は表1に示すとおりである。主な専門外来を概説する。

表1 クリニックの月別・科別受診者数

(2008年度)

科	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般内科		322	366	360	342	277	331	337	324	375	328	365	402	4,129
消化器 (肝臓含む)		141	129	130	185	234	217	272	225	253	219	186	188	2,379
循環器		88	71	64	94	58	73	78	73	72	78	65	94	908
糖尿病		77	62	82	54	71	69	53	46	91	73	76	77	831
腎臓病		6	15	7	11	5	14	9	9	9	17	17	18	137
呼吸器		44	40	57	63	48	48	56	57	65	68	58	57	661
整形		18	12	17	15	13	18	13	20	14	19	15	15	189
乳腺		148	111	151	130	111	126	185	163	129	127	103	134	1,618
婦人科		138	147	196	244	219	203	177	173	216	213	198	189	2,313
甲状腺		352	296	388	396	398	404	364	328	409	321	325	376	4,357
更年期		58	32	49	35	41	57	37	26	48	34	37	49	503
代謝		20	23	21	21	15	16	19	21	26	15	16	17	230
禁煙		7	11	11	11	14	15	7	3	7	8	24	6	124
睡眠時無呼吸		0	0	0	9	16	12	14	14	12	14	13	10	114
外来栄養指導		6	3	2	3	1	2	2	2	0	3	0	3	27
腎臓病		3	1	1	4	8	3	2	1	2	0	1	3	29
貧血		5	3	1	2	3	4	0	0	2	1	1	1	23
コレステロール		9	3	4	5	3	3	6	4	6	4	4	4	55
心臓病		12	7	11	2	18	8	11	5	4	4	6	13	101
脊柱側彎		18	16	8	19	29	6	14	18	16	5	8	29	186
合計		1,472	1,348	1,560	1,645	1,582	1,629	1,656	1,512	1,756	1,551	1,518	1,685	18,914

甲状腺外来

担当は百溪尚子部長で、甲状腺分野で世界的に有名な医師である。この外来の特徴は、甲状腺に関する最新かつ先端的診療を実施していることである。患者本人に自分の病気について理解を深めてもらうためパンフレットなどを準備し、初診で不安を持っている患者には時間をかけて説明を実施している。それぞれの患者の事情を考慮し、予約は拒まず、なるべく希望に添うよう心がけ、妊婦や遠方からの来院者のためには至急で検査を行い、即日判定をするよう心がけている。また、はがきでデータを送り、次回の指示を出すなど患者の負担を減らす努力をしている。

子どものことを心配する両親には家族外来(ファミリー外来とも呼んでいる)を設け、小児科医と甲状腺の専門医が同じ部屋で親子一緒に診察を受けられるよう連携している。さらに、患者のためにバセドウ病教室を開き知識を深めてもらうと同時に、個人の質問に答えられるよう会場には出席者のカルテも準備している。百溪医師以外に岩間彩香医師、井上ゆか子医師ら、いずれも女性医師が担当している。こ

のように患者主体の診療を実施しており、クリニック外来部門の主役を担っている。

妊娠中の甲状腺ホルモン異常は母子へさまざまな悪影響を及ぼす。このため妊娠初期の甲状腺機能検査のスクリーニングは大きな意義がある。現在乾燥る紙血を用いてスクリーニングを実施している。詳細は妊婦甲状腺検査の実施成績を参照願いたい。

乳腺外来

地域・職域を対象に実施した乳がん検診で要精密検査と判定された受診者、東京都産婦人科医会の会員より紹介された受診者を対象に、視触診、マンモグラフィ、乳房超音波検査、乳頭分泌物細胞診、穿刺吸引細胞診などにより質的診断を実施しており、「[1.5次精検]と位置づけている。

一方では自覚症を有する患者の診療も増加し、外来そのものの対応が困難を極めてきた。このため、検診からの経過観察症例のうち、軽症例は検診へ戻すようにして、外来受診の必要な患者の時間的確保に努めている。

本会の受診者で2次精検が必要な方には迅速に基幹病院を紹介し、経過観察が必要な人には安心して適切な間隔で検査を受けてもらうように配慮している。この乳腺外来を担当しているのは、坂佳奈子医師である(詳細は乳がん検診の項を参照)。

消化器外来

胃部レントゲン検査からの異常例について胃部内視鏡検査を実施している。本会の胃がん1次検診数は57,512人であり、要精検数は4,317人(7.5%)であった。このうち、当クリニックにおける胃部内視鏡検査実施数は1,611例、うち生検数は556例(34.5%)であり、胃がん発見数は26例を数えた(表2)。受診者に対する胃がん発見率は0.045%、陽性反応適中度は0.60%であった。

年度別の胃がん発見数は、2000年42例をピークに斬減している(表2)。これは某巨大職域検診事業所の脱落によるところが大きいことと、逐年胃検診による発見率減少が考えられる。

一方、筆者は東京都に肝臓専門医の届出を行い、肝臓専門外来を併設した。現在、B型肝炎療法の薬物(エンテカビル)療法、C型肝炎のペグインターフェロン、リバビリンの併用療法を中心に実施している。

婦人科外来

長谷川壽彦医師、伊藤良彌医師を中心に診療を実施している。東京都産婦人科医会の会員より紹介された受診者および本会施設で実施した地域住民と職域の1次検診で子宮頸部細胞診のパパニコロウⅢa以上の受診者を対象にコルポスコピー検査、細胞診および組織診を併用して子宮頸がんの早期発見に努めている(詳細は子宮がん検診の項を参照)。

代謝外来

現在、女子栄養大学院大学教授の大和田操医師が担当しているユニークな外来である。新生児スクリーニングから抽出したアミノ酸代謝異常症(フェニルケトン症など)や学校保健で抽出した2型糖尿病など

表2 年度別の消化器外来の受診者数と胃内視鏡件数・生検数・がん発見数

(1998～2008年度)

年 度	消化器外来 受 診 者	胃内視鏡 件 数	生 検 数	胃がん 発見数
1998	8,399	1,671	1,140	40
1999	7,459	1,549	1,004	28
2000	6,936	1,610	941	42
2001	6,574	1,739	1,111	29
2002	6,635	1,679	931	23
2003	4,278	1,531	757	18
2004	4,113	1,623	737	10
2005	4,027	1,743	708	21
2006	3,870	1,695	697	18
2007	2,277	1,514	561	13
2008	2,379	1,611	556	26

を対象に、小児から成人に至るまでの成育医療を実施している。

禁煙外来

2007年4月より禁煙外来を新設した。時代の流れで受診希望者は少しずつ増加している。当初、貼付薬(ニコチネル)、その後、経口薬(チャンピックス)を用いて治療しているが、最近の禁煙成功率は約87%と高い傾向にある。

おわりに

本会クリニックの特徴は、地域を対象とした一般診療とは異なり独特な形態を呈している。受診者の多くは、検診からの要精密検査対象者のうち本会受診希望者で、このため受診者の居住区は都内多岐に及んでいる。各種精密検査(がん診断)に呼応するため、各専門医を配置している。

がん診断には当然精度管理が伴う。現在、精度管理のプロセス評価を高めるため本会内に、各種(胃、大腸、乳腺、肺、子宮、前立腺)がん検診の精度管理委員会を立ち上げ、鋭意努力を重ねている。この結果、年度ごとに陽性反応適中度(発見がん数/要精密検査数)は上昇している。同委員会での主要な対策としては、疑陽性、疑陰性の押さえ込みを図ることと、追跡調査の実施率を上げることである。現在この目標に向けて、医師、看護師および医事課スタッフが共同で取り組んでいる。